

令和4年度 研究推進計画

府中町立府中小学校

1 研究主題

社会情動的スキルを高める学びの創造

～目標に向かってねばり強く取り組み、豊かに表現できる児童の育成～

2 研究主題設定の理由

本校では、学校経営目標「わたしがわたしになる学校」に基づき、自尊感情、表現力を育成し、自分の理想とする姿(志)について、自分の言葉で語り、その実現に向けて努力することができる児童の育成を目指している。

昨年度は、読解力と表現力を育成するために、読書活動の充実と語彙に着目した国語科の授業改善を行った。読み聞かせやブックトーク、ビブリオバトル等の多様な読書活動に取り組んだ結果、児童は日常的に読書に親しみ、一ヶ月の読書冊数が3冊以上の児童は99%であった。また、国語科やドリルタイムの中で、語彙を増やす取組として「辞書引き」「暗唱」「言葉遊び」「読書」「言葉集め」等、言葉にこだわった活動を行った結果、児童は言葉に対する興味関心が高まり、授業の中で言葉を正しく用いて説明することができるようになってきた。

自尊感情を育成するために、「ねばり強く取り組む姿勢」について様々な教育活動の中で指導を行ってきたが、「ねばり強さ」や「挑戦する気持ち」は、気質や性格と考えられ、評価しにくい面があった。そこで、今年度は、「社会情動的スキル」の育成に力を入れて取り組んでいく。

OECDは、「社会情動的スキル」(非認知的スキル)を①目標に向かう力②他者と協働する力③情動を制御する力の3つに分けている。この「社会情動的スキル」が育成されれば、「認知的スキル」(知識・技能、思考力・判断力・表現力等)も育成され、この二つは互いに影響し合いながら育ちあっていく。昨年度まで培ってきた語彙力の上に、読書を通じて生きて働く知識・技能を習得することで、「社会情動的スキル」を高めることができると思う。

昨年度より、「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」の指定を受けた。そこで、研究教科をこれまでの国語科に加え、生活科・総合的な学習の時間とし、SDGsの視点から、これまで取り組んできた「いのちの教育」をさらに深化させる取組を創造していきたい。

変化の予測が困難な未来に向けて、これから生きていく子どもたちには、さまざまな変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことが求められている。「社会情動的スキル」を育成することは、子ども達が自らの生涯を生き抜くための力にもなると考え主題を設定した。

3 研究仮説

読書活動を充実させ、SDGsの視点から探究的な学習に取り組むことで、児童は生きて働く表現力を身に付け、社会的情動的スキルが育成できるだろう。

4 研究内容

- ① 認知能力の育成
 - ② 言語能力の育成
 - ③ 目標を達成する力の育成
 - ④ 他者と協働する力の育成
 - ⑤ 情動を制御する力の育成
- 社会情動的スキル

5 研究方法

- ① 「府小っ子タイム」にコグトレに取り組み、認知能力を高める。
- ② 読書活動や国語科を中心としたすべての教科で、多様な場面や状況を理解するために必要な正確に読む・正確に聞く力を身に付けられるように指導を工夫する。
 - ・感性を豊かに働かせながら、どのような未来を作っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考えだすための読書活動を行う。
 - ・図書館テキストを活用し、読んだ本を紹介することを通して表現力を高める。
 - ・ブックトークやビブリオバトルを行い、読んだ本から感じたことを表現する。
 - ・体験したことを言語化し、問題提起や発信する機会を設定する。
- ③ 生活科・総合的な学習の時間を各学年の「いのちの教育」のテーマに沿ったものにし、SDG sの視点を付け加えて単元開発を行う。
 - ・めざす姿を児童自らが考え、自分事として課題解決を行えるような探究的な学習を行う。
 - ・家庭学習の充実を図り、自学ノート等、自分の興味関心があるものを、図書や資料を使って調べてまとめる力を付ける。
- ④ 設定した課題に向かって多様な他者と協働しながら解決するという体験ができる活動を取り入れる。
- ⑤ 自己の生き方について考えられるような道徳の授業を行う。
 - ・特別活動等の時間に、自己理解・他者理解を深められるような活動に取り組む。

6 検証の指標

短期経営目標	目標達成のための方策	評価指標
○情動を制御する力の育成 【生徒指導部】	(1) 特別活動の時間に、SSTの実践 (2) ぐんぐんカードにリンクした学級活動、委員会活動の取組 (3) 自己の生き方について考えるような道徳の授業の実践	① 「意識調査」の「学級力」に関する項目の肯定的回答を80%以上にする。
○認知能力の育成 ○情報活用能力の育成 (ICT活用) ※3つの力の基盤になるもの 【教務部】	(1) 府小っ子タイムを活用したコグトレに取り組む。 (2) 授業におけるICT活用の推進 (3) 情報モラル教育の提案	② 教科学力の結果が全国平均を3ポイント上回る。
○言語能力の育成 ※3つの力の基盤になるもの ○協働する力及び目標を達成する力の育成 【研究部】	(1) 自学ノートの内容がレベルアップする取組 (2) 各学年のいのちの教育=SDG sのテーマに沿ったプロジェクト型学習の実践 (3) レベル4 (問題発見・解決学習)の授業についての一人一提案 (4) 学校全体読書活動の推進 (ビブリオバトル・ポップ作成・ブックトーク等)	③ 「意識調査」の「学びの基礎力」に関する項目の肯定的回答を80%以上にする。 ④ 1カ月の読書冊数が3冊以上の児童を95%以上にする。 ⑤ 「意識調査」の「社会的実践力」に関する項目の肯定的回答を80%以上にする。
○目標を達成する力の育成 【健康安全部】	(1) 健康な体づくりのため、睡眠時間についての啓発と取組 (特別活動の時間にメンタルヘルス教育) (2) コグトレトレーニングを行う。	⑥ 「意識調査」の「家庭学習力」に関する項目の肯定的な回答を80%以上にする。

7 研修スケジュール

	認知能力の育成 (教務部)	情動を制御する力の育成 (生徒指導部)	言語能力の育成 (研究部)	目標を達成する力の育成 (研究部)	他者と協働する力の育成 (研究部)	目標を達成する力の育成 (健康安全部)
4月	今年度の研究の方向性について共有化を図る。					
5月	○コグトレについて研修を行う。	○SSTについてミニ研修を行う。 ○特別活動でSSTの授業を行う。 (月に1回程度)	読書活動の取組について共有化を図る。	生活科・総合的な学習の時間の単元開発について (SDGsの視点から) 研修を行う。		
6月	○子どもたちの実態に応じた領域のコグトレに取り組む。		ペア学年による授業研修を行う。			メンタルヘルス教育を行う。
7月						
8月			○下学年と上学年の組み合わせにすることで、お互いの児童実態や指導方法を交流できるようにする。	指導案作成及び検討を行う。		
9月				ブロック別授業研修を行う。		
10月				○下学年と上学年の組み合わせにすることで、お互いの児童実態や指導方法を交流できるようにする。		
11月			○リモート研修等を取り入れ、全体で共有化を図る。	○リモート研修等を取り入れ、全体で共有化を図る。		メンタルヘルス教育を行う。
12月						
1月	○コグトレの効果を検証して、改善計画を交流する。					
2月						メンタルヘルス教育を行う。
3月						